第 14 回
神戸女学院大学

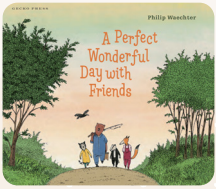
絵本翻訳コンクール

訳文作成用ファイル

このファイルは、Acrobat Pro を使用して作成した入力可能な PDF です。

お使いのアプリで入力できない場合は、Adobe 社の無料アプリ、Acrobat Reader DC をお使いください。

このロゴをクリック・タップすると Acrobat ReaderDCの Web ページにジャンプします→



課題絵本

Philip Waechter 作
『A Perfect Wonderful Day with Friends』

訳出範囲

題名ならびに本文すべて
（見返し、扉、裏表紙、書誌事項は含まない）

学校の正式名称

広尾学園高等学校

参加者1　学年 2 年

お名前（漢字・アルファベット等）

倉出　夏芽

お名前（ふりがな・よみかた）

くらで　なつめ

↓グループ応募の場合のみ入力してください

参加者2　学年 2 年

お名前（漢字・アルファベット等）

姉川　唯

お名前（ふりがな・よみかた）

あねかわ　ゆい

↓グループ応募の場合のみ入力してください

参加者3　学年 -- 年

お名前（漢字・アルファベット等）

お名前（ふりがな・よみかた）

訳文　　タイトル

みんなと　いれば　100てんまんてん

対になる左右両方で見開き1ページです。

左 ＋ 右

見開き1ページ

訳文　見開き1

あらいぐまさんが　います。
あらいぐまさんは　たいくつそうです。

すきな　本(ほん）を　よんでみたり
　からだを　うごかしてみたり

それでもたいくつで　かなしいときは　おやつを　つくる　じかんです。
あらいぐまさんは　りんごの　ケーキを　つくろうとしました。
でも　たまごが　ないみたい。

訳文　見開き2

「きつねさんの　ところに　いけばいいんだ。」　あらいぐまさんはおもいます。
「きつねさんの　おうちには　にわとりが　いるから　いつもたまごが　あるんだ。」

きつねさんは　せっせと　おしごとを　していました。
「なにしてるの？」あらいぐまさんが　ききました。
「あめが　おうちに　はいってくるんだよ。」きつねさんは　こたえます。
「だから　やねを　なおさないといけないのさ。　あともうすこしで　とどきそうなんだけど……。」
「あなぐまさんの　ところに　いこう！」あらいぐまさんは　いいます。
「あなぐまさんは　なんでも　もってる。　はしごだって　もっているはずだ。」

訳文　見開き3

ふたりは　あなぐまさんの　おうちに　むかいました。
「100てんだ！」あらいぐまさんはおもいます。　「きつねさんとのおさんぽだ！」

あなぐまさんは　かんがえごとをしているみたいです。
あなぐまさんの　あたまは　クロスワードパズルで　いっぱいです。
「２もじの　みつを　つくるむしって　なんだと　おもう？」
「うーん。そのことなら　くまさんにきいてみよう。」キツネさんがいいました。
「よし　くまさんの　ところへ　いこう！」

訳文　見開き4

あらいぐまさんと　きつねさんと
あなぐまさんは　くまさんが　すん
でいる森（もり）まで　げんきよく
　あるいて　いきました。

そこにむかう道（みち）の　とちゅ
うで　みんなは　きいちごを　みつ
けました。
「100てんさ！」きつねさんは　おも
います。「あなぐまさんと　あらい
ぐまさんとの　ピクニック！」

くまさんは　おうちに　いませんで
した。
でも　ラッキー！からすさんは　く
まさんが　どこに　いったのか
しっているみたいです。
「川（かわ）の　ほうだよ！」　か
らすさんは　なきました。

訳文　見開き5

あらいぐまさんと　きつねさんと
あなぐまさんと　からすさんは　川（かわ）へと　むかいました。
「100てん！」　あなぐまさんは　おもいます。
「あらいぐまさんと　きつねさんと
　からすさんとの　たんけんだ！」

みんなは　さかなつりを　している
　くまさんを　川（かわ）の　ほとりで　みつけました。

訳文　見開き6

くまさんは　ともだちみんなと　あえて　とっても　うれしそう。
「わぁ、びっくり！」くまさんのこえが　ひびきます。

「なにかとれた？」　きつねさんは　ききます。
「まだ　なにも　つれてないよ。」　くまさんは　こたえます。

「どんなおさかなを　まっているんだい？」　あらいぐまさんは　ききます。
「サケかな。」　くまさんは　こたえます。
「えさは　なに？くるくるするやつ？　きらきら？　それとも　ゆらゆらするやつ？」　からすさんは　ききます。
「ううん、みみず。」　くまさんは　こたえます。
「でも　まだつんつんも　してこない。」

訳文　見開き7

みんなは　しばらく　まっていました。
「100てん！」からすさんは　おもいます。
「あらいぐまさんと　あなぐまさんと　きつねさんと　くまさんとの　さかなつりの　たび。」
まだまって　またまって　さらに　まちました。でも　なにも　おこりません。
おさかなたちは　よってきません。

「えさを　かえてみたら　どう？」
あなぐまさんが　すすめます。
「きいちご　とかは？」
「なにも　わかってないね。」くまさんは　いいます。「まつことが　だいじなんだ。」
あなぐまさんは　ちっとも　さかなつりのことを　しりませんでした。

訳文　見開き8

あなぐまさんは　おさかなを　つれないし、　きつねさんは　まてません。

「サケを　すでで　つかまえてくるさ！」きつねさんは　さけびます。
「すぐもどるよ！」

きつねさんは　かわに　とびこみました。

訳文　見開き9

きつねさんも　いっしょうけんめい　がんばりましたが　おさかなはとれません。

まるで　川（かわ）の　水（みず）に　よばれたかのように、あらいぐまさん、あなぐまさん、からすさん、そして　くまさんまで　つぎつぎと　川（かわ）の　なかへと　とびこんでいきました。
水（みず）あそびは　やっぱりさいこう！

「100てんだね。」くまさんは　おもいました。
「あらいぐまさんと　きつねさんと　あなぐまさんと　からすさんとの　水（みず）あそび。」

訳文　見開き10

そのあとは　ひなたぼっこをしながら　毛（け）や　はね　を　かわかしました。

そのあいまに　せかいいちむずかしい　クロスワードパズルを　みんなで　ときました。

ひが　くれてきたので　5ひきの　なかまたちは　おうちに　かえります。
そのまえに　まだ　やることが　すこし……。

対になる左右両方で見開き1ページです。

左 ＋ 右

見開き1ページ

訳文　見開き11

あなぐまさんの　はしごを　かりたり、

訳文　見開き12

きつねさんの　やねを　なおしたり、

たまごを　おすそわけしてもらったり。

訳文　見開き13

やっと　りんごの　ケーキを　あらいぐまさんの　おうちで　やけます。
きつねさん、あらいぐまさん、からすさん、それに　くまさんにも　ひときれずつ 。
くまさんは　もっとたべたいみたいだけど。

なんてすてきな　よる
なんてすてきな　100てんの　いちにち

コメント1

何に気をつけて訳した？

この絵本が伝えたい事、作者がこだわったポイント、そして日本人の子供達が読んだ時に馴染みやすいかを気をつけながら訳しました。とくに作中、何度も出てくるperfect という言葉は子供にも嬉しい気持ちや楽しい気持ちが伝わりやすい100点という言葉を選び翻訳しました。

コメント2

一番大変だったことは？

一番大変だったのは作者のニュアンスを残すところで、作中に出てくるリズムの良い英語や繰り返しになっている英語を日本語にしたときにそのリズムが崩れないようにどのように訳すか試行錯誤しました。

コメント3

絵本を翻訳してみてどうだった？

絵本を翻訳するという今まで経験してこなかった体験を通して、小さい時、ワクワクしながら手に取り、ページをめくった絵本にその時は気づかなかったたくさんの工夫があることを知りました。話し合いをし、翻訳する作業をしていく中で、私たち自身も子供の目線に立ち、童心にかえることができたので、私たちが翻訳した本が何回も手に取りたい、何回でもわくわくできるものになっていたら嬉しいです。

別名で保存する

↑Acrobat Readerでのみ作動するボタンです
他のアプリを使用している場合は作動しません

審査員使用欄

神戸女学院大学

通訳・翻訳プログラム